

【完全再開後】 授業時間数の補充について

取組のポイント：**内容重視で無理なく対応**

義務教育課

授業時数・授業日数について

1,015時間▶標準授業時数(小4～中3)

1,050時間▶週数の下限、年間35週(175日)×6時間

35時間の誤差により、小4～中3は、175日×1日当たり5.8時間

通常は、200日前後の授業日を設定

200日－175日＝25日分の余裕

(例年は、この余裕があるため、)

- 👉 土曜参観日、定期考査等で午前のみ授業の設定が可能
- 👉 非常変災やインフルエンザの流行による休業があっても対応可
- 👉 昨年度、3月の授業が無くても、小6、中3は課程修了済

シミュレーション

【年間授業日数】 4月8日～3月25日の間、最大202日

【臨時休業日数】 最多:29日、最少:20日

【5月25日以降の日数】 173日

【臨時休業中、補充済とみなす日数】※当然、学校ごとに異なる

①行事等により、通常は授業をしない日☞3日(始業式、入学式、遠足等)

②家庭学習の成果を認め、再指導不要※休業日数の約1割とみなす

☞最多:3日、最少:2日

【173日の中で、追加する必要のある授業時間数】

最多:(29日-6日)×5.8h=133.4時間、最少:(20日-5日)×5.8h=87時間

シミュレーション

173日の中で、追加する必要のある授業時間数

最多： $(29-6) \times 5.8 = \underline{133.4}$ 時間 最少： $(20-5) \times 5.8 = \underline{87}$ 時間

◆ 1日当たり0.77時間をプラス

◆ 1日当たり0.5時間をプラス

夏季休業に10日(1日4時間)の授業日を設定した場合

◆ 1日当たり0.54時間をプラス

$[(133.4-40) \div 173]$

◆ 1日当たり0.27時間をプラス

$[(87-40) \div 173]$

時間割の例【モデルは、給食から昼休みまで時間をたっぷり取っている小学校】

A: 1日6. 5時間、B: 1日7時間扱い

	従 来	再 開 後	
		A10分×2	B6時間目を2コマ扱い
朝学習・朝の会	8:00~8:25	8:00~8:25【うち、10分】	8:00~8:15
1時間目	8:30~9:15	8:30~9:15	8:20~9:05
2時間目	9:25~10:10	9:25~10:10	9:15~10:00
業間	10:10~10:30	10:10~10:30	10:00~10:15
3時間目	10:30~11:15	10:30~11:15	10:15~11:00
4時間目	11:25~12:10	11:25~12:10	11:10~11:55
給食・歯磨き等	12:10~13:05	12:10~13:05	11:55~12:50
昼休み	13:05~13:35	13:05~13:30	12:50~13:15
掃除	13:35~13:50	13:30~13:45	13:15~13:30
5時間目	14:00~14:45	13:55~14:40	13:40~14:25
6時間目	14:55~15:40	14:50~15:45【55分】	14:35~15:45【70分】
帰りの会	15:40~15:55	15:45~15:55	15:45~15:55

結論

今後のカギは、各学校が1日6.5時間、7時間授業をどのようにして設定するか

それが可能であれば、夏季休業中に多数の授業日を設けなくても、授業の補充対応が可能

併せて、前年度積み残し分・再度の臨時休業が生じる可能性も視野に入れたカリキュラムづくりが必要

👉 次年度以降に先送りしても差し支えない内容の洗い出しは必須